



二川宿まち並み通信

第40号 令和8年9月1日
発行：「二川宿」まちづくり会
大岩町東まちづくり会
大岩中まちづくり会
協力：豊橋市都市計画課

大盛況

二川宿の夏の風物詩

第12回「灯籠で飾ろう二川宿」が開催！



見慣れた旧東海道のまち並みが、
幻想的な雰囲気包まれる

今年で第12回を迎えた二川宿の夏の風物詩、「灯籠で飾ろう二川宿」(主催:NPO 法人二川宿「灯籠で飾ろう二川宿」開催実行委員会)が、7月25日(土)に開催されました。

二川宿本陣や旧旅籠屋「清明屋」、旧商家「駒屋」などのある旧東海道のまち並み約1.5kmの沿道に、約3千基の手作り灯籠が飾られ、浴衣姿の方々や家族連れ、カメラを持った市民らでにぎわいました。

約2万人の方々が、幻想的な雰囲気の中、催しや飲食を楽しみました。

◆ 実行委員会 会長に想いを聴きました！

今年度、第12回を迎えた「灯籠で飾ろう二川宿」ですが、始まりは旧商家「駒屋」のオープンイベントとして開催しました。大変好評をいただき、その後、地元幼稚園・小学校・中学校とも連携し、毎年7月最終土曜日に開催するようになりました。江戸時代の風情が残る街並みに灯籠を置くという、一見ありがちなイベントの様ですが、旧街道1.5kmを通行規制する、という規模で行うとなると、全国的にも珍しいようです。日本人の「心のふるさと」を感じるイベントということで、私は灯籠まつりを「新たな文化の創造」だと思っています。

私たちのイベントは、行政等の強力な支援のあるイベントではなく、全て住民による「手づくり」のイベントです。頂いた協賛金のみでまかなっている「限られた予算」と、当日スタッフは約30名という「限られた人員」での事業ですが、二川宿を愛する住民のボランティア精神に支えられて成り立っています。このボランティア精神こそが、後世に受け継いで欲しい私の想いです。

二川宿の魅力の発信がこの事業の目的ですが、青少年の育成も同じく大きな目的です。子どもたちが灯籠制作を通じて、この事業に主体的に取り組んでもらい、「原体験」として心の中に残って欲しいと思っています。今後は「中高生灯籠コンテスト」のようなアートイベントを通じて感性や創造性など、子どもたちの心の豊かさを育む事業を行いたいと思います。



多くの方にご来場、ご支援頂きまして、誠にありがとうございました。

今後も楽しい事業・趣深い事業・創造的な事業を展開して参りたいと思います。

▲ 実行委員会 会長 児玉 和久さん



大岩神明宮での「中高生灯籠コンテスト」の風景

◆ 将来にわたり引き継がれる、誇りあるまちを創造するため、 まちづくり会も灯籠まつりに参加！



■ ‘二川宿’まちづくり会 会長 山本 剛生

確実に定着しましたね、「灯籠で飾ろう二川宿」。今年も多くの方々が旧東海道を散策して頂けたと思います。まちづくり会として、直接の参加はしていませんが、東町若連が千本つり・スーパーボールすくいの店舗を開き、「子供たちのいい笑顔がたくさん見れ、楽しかったです。」との声をいただきました。次の世代に繋がったと安堵した、今年の灯籠まつりでした。



■ 大岩町東まちづくり会 会長 小杉 泰文

まちづくり会として毎年、会の区域の両端に、大型の灯籠を出させて頂いております。

大岩神明宮の境内において、「中高生灯籠コンテスト」が開催され、約50基の選ばれた灯籠が並び、私も氏子総代として、神社の賑わい、そして皆さんの感謝を込めたお参りを嬉しく思いました。



■ 大岩中まちづくり会 会長 横田 健

まちづくり会としては、会員さんで分担して灯籠の設置から火の管理・撤去まで担当し、また、ヨコタサイクルの駐車場でビール、レモンハイ等の販売を行いました。

祭りが年々大きくなり、外部からキッチンカー等で参加される方が多くなっている印象があります。だからこそ、地元二川の住人が灯籠まつりに参画する事が、より一層求められていると思っています。今後も無理なく、まちづくり会として祭りに協力できればと考えております。



◆ 二川宿と交流が続く前芝 湊 でも川灯ろうまつりが開催！

今年の「灯籠で飾ろう二川宿」には、3月に二川宿と交流会を行った前芝湊から、「前芝 川灯ろうまつり」実行委員会 会長の加藤正敏さん、前芝伝統文化保存会 会長の林徹生さんらもお越し頂きました。江戸時代に東海道を通じて栄えた、豊橋市の歴史ある二川宿と前芝湊というふたつのまちが、現代においても交流を続けています。今後も互いに高め合いながら、まちづくりを進めていけたらと思っています。

その前芝湊では、8月14日(金)、15日(土)に、第12回「前芝 川灯ろうまつり」(主催:前芝 川灯ろうまつり実行委員会、共催:前芝青年団、前芝伝統文化保存会)が、前芝町の豊川放水路兩岸堤防にて開催されました。約700基の灯ろうが川沿いに並び、来場者は年々着実に増えているそうです。また、令和7年3月、豊橋市の景観重要建造物に指定された「前芝の燈明台」に、今年も灯りが点灯しました。



■ 実行委員会 会長 加藤 正敏さん

「灯籠で飾ろう二川宿」を見学し、少しだけお手伝いをさせて頂きました。二川宿のみなさんの大きな熱意を感じ取ることができ、前芝湊の取り組みに活かしていこうと思います。

前芝青年団主催の盆踊りがにぎやかになるようにと続けている、前芝 川灯ろうまつりを今年も開催することができました。前芝湊は堤防沿いの水辺の灯ろうが主ですが、今年は「燈明台」まで灯ろうがつながるようにし、「燈明台」の灯りを見ながらくつろげる場も設けました。

■ 前芝伝統文化保存会 会長 林 徹生さん

私は「燈明台」内部見学の説明を担当しました。以前より2階に上がりたいとの要望が多かったため、今年は2階も見学できるようにしました。2階から堤防に向け、かつての前芝湊の写真も投影しました。前芝湊のシンボルである「燈明台」の灯りは、来年以降も続けていきます。

